第 20 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名（河盛委員）

教 育 長) それでは、審議に入ります。

日程に入る前に、ご報告させていただきます。

去る 2 月 16 日に開かれました定例市議会で議会の同意を得て、三宅真理子氏を教育委員に選任いたしました。

任期は令和 6 年 2 月 16 日から令和 10 年 2 月 15 日までです。

4 年間どうぞよろしく願いいたします。

それでは、新教育委員の三宅委員、ご挨拶をお願いいたします。

〈委員あいさつ〉

次に、各部室課長の紹介を行います。

〈紹 介〉

教 育 長) それでは、審議に入ります。

はじめに、日程第 1、第 26 号議案「芦屋市立学校園医・学校園歯科医・学校園薬剤師の委嘱について」を議題とします。

提案説明を求めます。

保健安全・特別支援教育課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

この委嘱に当たっては、医師会・歯科医師会・薬剤師会をお願いして、御推薦いただいているということですね。

保健安全・特別支援教育課長) はい。

森川委員) 今回の議題と少し外れるかもしれませんが、医師の先生方の診療科で、内科医・外科医・眼科医・耳鼻科がありますが、精神科の先生の方に校医になっていただくことは、今まで御検討されたのか、その辺りの状況をお聞かせいただけたらと思います。

保健安全・特別支援教育課長) 今まで、そのような検討はなかったと思います。

森川委員) 今、先生方のメンタルヘルスの問題や不登校など、そういったメンタルの問題がかなり取り上げられる時代になっていると思いますが、精神科の先生の御意見なども伺えたら、そういった問題に対して、より適切に対応いただける可能性も広がってくるのかなと思ひまして、お聞きしました。

学校教育担当部長) 教員には80時間超えの際にお声掛けをさせていただきます。その際に、校医さんとは別で、教職員課では市費の職員と県費職員と両方管轄してございまして、芦屋の医師会に、労働安全衛生法に基づいてお願いしております。

また、兵庫県で教員側のメンタルヘルス相談は別でございませう。

教育長) 学校保健安全法施行規則の中で、職務の執行の準則があつて、そのテリトリーを見ていったときは、健康診断であるとか、応急処置であるとか、感染症予防などのいろいろな対応を考えたときは、従来どおり、内科や外科の先生にお願いしてききました。これからは思春期外来を含めた新たな範疇が、市として考えていく余地があるのではないかということの御示唆だったかなと思います。

内科の先生の代わりに精神科の先生をというものではなくて、芦屋市として、子どもたちが一般の病院に行くだけではなくて、手だてとして、今後考える必要があるのかなということも、今、御意見を伺いながら思いました。

河盛委員) 精神科もそうですが、婦人科などもちょっと関係している場合もあります。ただ、それは校医とかではなくて、アドバイザーのような、相談できるような感じの方法を、校医とは別のシステムにしたほうがいいのではないかなと思います。

県では、アレルギー協議会みたいなものがありまして、アレルギーの相談が、学校の保健の先生や、あるいは給食関係者が、主に食物アレルギーのことが多いですが、個別の相談をすることができ制度があります。年間10例ぐらいしかありませんが。

アレルギーに関してはそういうものがあるのですが、そういうものに近いようなものがあるのではないかな。相談を上げると、医師会などのいろいろな会が何らかの回答をするとか、そういう感じですね。

極楽地委員) 別のシステムで、そういった先生方に、婦人科や精神科に関するような内容で、保護者の方が子どもたちの様子を見て相談できる窓口があればいいなと思います。今まで、それがスクールカウンセラーだったりスクールソーシャルワーカーだったりすると思うので。その辺り、なかなか周知がまだできていない状況で、今回、不登校や学校の悩みごとの相談のリーフレットを作っていただいて、ホームページに掲載いただいていますので、それをどうにかもっと周知をしていただきたいと思います。

それによって体の面や心の面で、何か気づきができるかもしれないなと思いました。このリーフレットですが、各学校でプリントアウトして、配布をしていただきたいと思います。すごくいいリーフレットを作っていただいていますので、保護者まで届けていただいたほうがいいかなと思いましたので、御検討をお願いいたします。

河 盛 委 員) 1 度、市が精神科のパンフレットみたいなものを作って、配ったことはあります。我々医療機関にも届きました。

教 育 長) 子どもの健康、特に精神面等の対応が充実すればいいという観点で、指摘いただいたということです。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。

本案は、原案どおりと決することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。

よって本案は原案のとおり決しました。

〈第 2 6 号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 続いて、日程第 2、報告第 2 7 号「令和 6 年度芦屋市立幼稚園学級編制について」を議題とします。

提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

極 楽 地 委 員) 岩園幼稚園ですが、3 歳児クラス、2 5 人定員で、今、2 4 名。昨年 1 0 月に抽選があったと伺っておりまして、これ

は1名マイナスで、その抽選の方からまた確認をなさって、ただ、御希望がなかったので、マイナス1という認識でよろしいでしょうか。

管理課長) 岩園幼稚園ですが、その後、何人か辞退がありまして、最終的に1減という状況になっています。

極楽地委員) 申し込みの1枠、まだ空いている状況ですか。

管理課長) はい。

極楽地委員) 承知しました。市立幼稚園は、例えば配慮が必要なお子さんだったり、あと、医療的ケアが必要なお子さんを入れていただけるところで必要だとは思っていますが、来年度もそういったお子さんが各入園なさる御予定でしょうか。

保健安全・特別支援教育課長) 配慮を要する子もたくさんおります。全体で加配が2名、支援員が3名つく予定となっております。それから、医療的ケアの子も、今年度4歳だった子が来年度5歳になりますので、1人5歳児でおります。

極楽地委員) 本当に市立幼稚園のよさだと思っております、丁寧な教育だったり保護者の方も皆さん感謝なさっているのも、できるだけ均等に幼稚園が続いてくれればよいなと思いつつ、人数も減ってきていますので、今後、あり方も必要かなとは思っているので、タイミングを見て、皆で丁寧に進めていければと思っています。よろしくをお願いします。

教育長) 極楽地委員の話にありましたように、キャパの割にはということもありますので、今後、幼稚園の量と幼稚園の質の両面で考えていく必要があると思っています。

質とは何かというと、3歳児保育であったり、給食であった

り、そういうことを総合的に何ができるのか。ただ単に数が少ないから、幼稚園を減らしましょうという議論ではなくて、その両面から考えることが大切です。芦屋の就学前の子どもたちの行き先、それが認定こども園であったり、保育所であったり、また別のところなど、市全体でどういう形がいいのかを考えていく必要があると思います。

コロナが収まって、子どもたちの出生率がどうなるかもありますが、何もせずにとすることはできないなど、この数字から見えて思っています。

河 盛 委 員) 例えば4歳児や5歳児で、どこにも所属していないお子さんはおられますか。

管 理 課 長) 直近で調査をしたことはないですが、ほぼどこかには行っている感じがします。それが、認可外である場合もありますし、プライベートスクールに行かれています方もいますし、いろいろですが、恐らく、全くどこにも行っていない子どもは、ゼロではないですが、かなり少数だと認識しています。

教 育 長) 3歳児だったらいるかもしれませんね。

管 理 課 長) そうですね。

教 育 長) 今申し上げたような観点で考えていきましょう。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、報告第27号「令和6年度芦屋市立幼稚園学級編制について」の報告を受けたものいたします。

教 育 長) 閉会宣言